課題1.　オンラインショップについて

1. オンラインショップとは

ＥＣサイトともいう。自社の商品（広義では他社の商品）やサービスをインターネット上に置いた独自運営のWebサイトで販売すること。その多くは商品説明、ショッピングカート、決済システムなどが備えられており、Webサイト上で商品の購入、発注が行えるようになっている。

1. オンラインショップの種類

オンラインショップは大きく分けて次の三つに分けられる。

・ショッピングモール型

集客力が高く、自分で集客方法を考える必要がない。

競合相手が多く、結果的に価格競争になりやすい。

ランニングコストや手数料などが高く、利益率が低い。

サポートやテンプレートが豊富で専門的な知識がなくても開業できる。

・クラウドASP型

開業に必要な様々なシステムを期間貸しの形式で利用する。

ショップの規模に応じて利用するサービスを決める。

ロイヤリティ手数料などが不要。

自由度が低い場合が多く、個性をだしにくい。

集客のサポートはほとんどない。

・オープンソース型

余計な費用がかからず、利益率が高い。

専門的な知識が必要だが、自分の趣向をショップに反映できる。

開業にある程度専門的な知識が必要になる。

集客を独自に行わなければならない。

1. 具体的なオンラインショップサービス例

(1)ショッピングモール型の例

・楽天

　日本最大級のショッピングモール型サイト。

集約力が非常に高く、高い利益を見込める。

初期費用およびランニングコストが非常に高い（月額2万～5万程度）。

売り上げに応じて手数料が発生するため利益率が下がる（5％前後）。

ある程ニーズがあり競合が少ない商品を扱う場合や、優位的な仕入ルートなどで他社より低価格が実現できる場合に向いている。

(2)クラウド型ASPの例

・Jimdo

クラウド型Webサイト作成支援ソフト。無料プランあり。

簡単なマウス操作でWebページを作成することができる。

HP、ブログ、ネットショップが一体型サイトの作成が容易。

個別に対応するようなシステム構築をすることはできない。故に商品の在庫管理など、独自のデータベースを扱うことには不向き。

独自プログラムを自由に組み込むことはできない（現在はJavaScriptのみ）。

商品数や決済方法を増やすためには有料プランが必要。

集客に関するサービスがなく、自分で考える必要がある。

無料で開業できる点から、ネットショップ開業の練習や小規模なネットショップの作成に向いている。

・Base

　ネットショップを作るためのクラウド型Webサービス。

初期費用も月額費用もなし。クレジット決済時の手数料のみ。

　専門的知識必要なし。三分でネットショップ開業がうり。

　Ｔシャツ、スマホケースのデザインを販売でき、並べる商品がなくても開業できる。

　独自にカスタマイズするためには有料登録が必要。(HTML CSS JavaScript)

　とりあえずネットショップを開業したいという人に向いている。

（3）オープンソース型の例

・EC-Cube

　株式会社ロックオンが公開したオープンソースのECサイト開発パッケージ。

　日本製であり、日本語の情報が多い。

　ASPサービスでは実現できない独自性の高いサイトを構築できる。

　使いやすい管理画面で運用がしやすい。

　レンタルサーバーの準備や集客プランなどある程度専門的知識が必要。

　サイト構築を委託する場合、計算がしづらく、費用がかさむ場合がある。

　カスタマイズには専門的な知識が必要。

　自分だけのオリジナルサイト、複雑なシステムが必要なサイトを作成する人に向いている。導入実績は多いが、開設後の集客方法を考えておかないと失敗しやすい。